**災厄を除き、人々の景福を祈願するためのお寺**
周防国分寺は、741年に聖武天皇（701～756年）の勅願によって建立されました。戦乱、自然災害、疫病が際立って発生した治世のなかで、聖武天皇は仏教が国土に平和と安定を取り戻すと考えていました。よって聖武天皇は日本各地に*国分寺*（または国家管理の官寺）の建立を命じました。最大のものでは奈良の東大寺があり、当初は大和の国分寺として知られていました。合計で68の官寺が建立されましたが、その後の1300年の間で、その大半が倒壊、焼失、または創建当初の場所から移設されました。

周防国分寺は、多くの主要建物とともに創建当初の位置（境内は創建当初よりも東西が短くなっていますが）に今も立っている点で珍しい存在です。この事実は、1997年から2004年の間に行われた*金堂*（または本堂）の解体修理が行われて、創建当初の柱の基盤が、現在の金堂の真下に発見されたときに判明しました。

18世紀後半に本堂は、毛利重就によって再建されました。（毛利家の家紋が、建物に入る階段上の*向背*（張り出した屋根）の梁に刻まれている）二階建て入母屋造は、大規模で人目を引く構造になっています。解体修理工事では以前使われていた古い瓦を正面に使い、裏側には新しい瓦を使用しました。本堂には50余体の仏像が安置されており、最重要仏像である本尊薬師如来坐像があります。